福貿ニュース 夏

～ 福岡貿易会情報誌 ～

第 62 号

福岡貿易会　令和 7 年度通常総会・臨時理事会開催

●通常総会・臨時理事会

令和 7 年 6 月 3 日(水)、西鉄グランドホテルにて、令和 6 年度事業報告、収支決算及び役員の選任等を審議するため、福岡貿易会第 60 回通常総会を開催しました。おかげさまで、委任状を含め総勢 221 名の方々にご参加いただき、全議案の決議とともに新たな役員(理事・監事)が選任されました。

その後、新理事・監事により臨時理事会が開催され、会長、副会長及び専務理事が下表のとおり選定されました。

●福岡貿易会 会長・副会長　令和 7 年度新体制

会　　長	西部ガスホールディングス(株)	代表取締役会長	道永(みちなが)　幸典(ゆきのり)
副 会 長	三井物産(株)　九州支社	九州支社長	三井(みつい)　高輝(たかてる)
副 会 長	本多機工(株)	代表取締役社長	龍造寺(りゅうぞうじ)　健介(けんすけ)
副 会 長	津田ホールディングス(株)	代表取締役社長	津田(つだ)　鶴太郎(つるたろう)
副 会 長	(株)正興電機製作所	代表取締役社長	添田(そえだ)　英俊(ひでとし)
専務理事	(公社)福岡貿易会	専務理事	平塚(ひらつか)　伸也(のぶや)

福岡貿易会　講演会・会員交流会

●講演会

「福岡貿易会第 60 回通常総会」に先立ち、講演会を開催いたしました。講師の財務省門司税関長の末永 広様に、「最近の税関行政について」と題して、税関を取り巻く状況や税関の 3 つの使命、貿易概況などについてご講演いただきました。

末永氏

講演の様子

安全・安心な社会の実現のため、門司税関が福岡空港で摘発した覚せい剤や知的財産侵害物品の輸入差止状況、また、金地金の密輸摘発事例など写真を交えて説明がありました。また、EPA の利用状況として輸出入の現状、利用促進に向けた取り組みのほか、貿易概要については、全国と九州経済圏との比較、特に、九州経済圏の主要品目別の輸出入額の推移等についての説明があり、税関が公表している貿易統計の有益性についてお話いただきました。

会場は満員で、講演後の質問時間では、参加者から多くの質問がなされ、講師から丁寧にお答えいただき、大盛況の講演会となりました。

参加者から講師へ質問

●会員交流会

通常総会、臨時理事会後、会場を移動し、会員交流会を開催いたしました。多忙な時期にも拘らず、多くのご来賓の方々にもご出席いただきました。

はじめに、道永会長によるご挨拶、続いて、土屋相談役（前会長）から春の叙勲受章のご報告があり、大変おめでたい場となりました。新規入会された企業の皆様を含め、総勢 120 名以上のご参加となり、様々な業界の横断的な交流の場として、懇親を深めることができ、大盛況の交流会となりました。

道永会長

土屋相談役

交流会会場

新会員の皆様

津田副会長による博多手一本

福岡貿易会土屋相談役が「旭日双光章」を受章

叙勲伝達式

●令和７年春の叙勲で旭日双光章を受章

～執筆：土屋相談役～

去る７月 17 日、福岡貿易会の有志の皆様により、春の叙勲「旭日双光章」の受章祝賀会を盛大に催していただきました。皆様方から温かい祝意をいただきまして有難く、心から感謝申し上げますとともに改めて身の引き締まる思いでございます。

今回の叙勲は福岡貿易会からのご推薦によるもので、5 月 28 日、経済産業大臣から勲記と勲章をいただき、その後、皇居にて天皇陛下の拝謁、労いの言葉をいただきました。この上ない栄誉であり、同行した妻共々に感激の極みでありました。

これは、私個人に対してではなく、福岡貿易会の事業がこの福岡地域の経済発展、活性化に大きく貢献している事が広く認められた結果であり、代表して私がいただいたものであります。改めて福岡貿易会の皆さま、福岡市はじめ関係機関の皆さまのおかげと心より感謝申し上げます。

伝達式会場にて

旭日双光章勲記

私は 1998 年理事に就任し、通算 26 年間役員として事業に係わらせていただきました。特に会長職 9 年間、皆様方には多大なるご支援ご協力を頂きました。事業の活性化や会員増強、事務局体制の再編、定款・規程の見直しなど、地域に役立つ事業推進体制の強化に取り組みました。何とか大過なく務められましたのも、皆様方はじめ今日の福岡貿易会の発展基盤を築いてこられた歴代の会長、副会長、役員の方々、事務局の方々のご尽力のおかげであり、深く敬意を表します。特に前任の並田相談役、甲斐特別顧問には長年に亘り、貿易会の発展に尽力され、福岡地域の貿易振興の経済団体としての地位を築かれました。並田相談役の叙勲に続いて、私が受章出来ましたのも、その基盤を受け継いだものであり、お二人に敬意と感謝を申し上げます。

祝賀会にて甲斐顧問と

私自身、貿易会の事業に携わって本当に大変良い体験、勉強をさせて頂き感謝しております。一番の体験は海外視察への参加です。時代の一歩先を見て視察するという貿易会のフィロソフィーに沿って訪問先やテーマを決めて事前に勉強し、視察団を出してきました。私にとって貴重な体験であり財産になっています。そして一緒に行動を共にした皆様との絆やネットワークがそれにも増してありがたい貴重な財産であります。

ボルドー、広州市、アトランタ、オークランド、ヤンゴンなど姉妹都市訪問も重要なミッションであり福岡市と歩調を合わせて経済訪問団を出しています。そのほか欧州各国、中央アジアやバルト3国、豪州、インド・ネパールなどの特色ある各都市を訪問しましたし、中国・東南アジアを中心に小ミッションも多数出しました。それぞれの都市にはそれぞれの多様な文化・産業の強みがあり、そして常に変化し、発展しております。各国各都市とこれからの時代に即したウィンウィンの関係構築が求められます。

日本は資源のない島国であり意識的に海外視察や海外の方との交流をする事がたいへん重要と思います。視野を世界に向けて事業展開する、自発的に海外に出てニーズに応えることが重要だと思います。

福岡貿易会の事業は、そういうチャンスを作る重要なプラットフォームであります。

祝賀会会場

道永会長のもと、会員も増えてますます活発な事業が行われていること大変頼もしく嬉しく思っております。私も相談役として引き続き福岡貿易会の事業をおおいに盛り上げていきたいと思います。福岡貿易会のますますの発展と、皆様方のご多幸ご健勝をお祈り申し上げます。

(公社)福岡貿易会
相談役
土屋（つちや）　直知（なおのり）

平成23年	福岡貿易会	副会長
平成27年	同　会	会長就任
令和 6 年	同　会	会長退任
同 年	同　会	相談役就任
令和7年春	旭日双光章を受章	

●第 84 回ゴルフコンペ、表彰式兼懇親会(2025 年 4 月 15 日 開催)

第 84 回福貿会ゴルフコンペを芥屋ゴルフ倶楽部にて開催いたしました。

今回は初の試みとして「表彰式兼懇親会」を同日別会場で行い、ゴルフと合わせて総勢 70 名の皆様にご参加いただきました。

「ゴルフコンペ」では、芥屋の代名詞でもある高麗グリーンや深いバンカーを前に、ものともせずに華麗に攻略する方から計算したかのように毎ホール苦戦する方まで、皆様スコアを気にしつつも交流を深めていただきました。

「表彰式兼懇親会」では、懇親会のみご参加の方を交え、ゴルフの話や仕事の話などで盛り上がり、酒は進むが進行が進まないとつぶやきたくなるほどの盛会となりました。

改めまして、多数の賞品をご協賛いただきました皆様ありがとうございました。

次回は、2025 年 10 月 7 日(火)雷山ゴルフ倶楽部にて開催を予定しておりますので、皆さまのご参加を心よりお待ちしています。

●成績表

総合順位	氏　名	OUT	IN	GROSS	HDCP	NET
優　勝	吉村 雄大	50	55	105	33.6	71.4
準優勝	大野 慶樹	43	43	86	13.2	72.8
3　位	廣田 剛二	44	46	90	16.8	73.2

○視察概要

・期　間：2025 年 2 月 17 日(月)～22 日(土)
・訪問先：台北、新竹、高雄、桃園
・目　的
①半導体産業を中心とした台湾の現状視察
②台湾高速鉄道はじめ台湾の交通インフラ視察
③現地日系企業、諸団体との意見交換
・参加者：龍造寺団長以下 12 名(事務局含む)

＜台湾三井物産股份有限公司＞

台湾の現状、産業の状況等について、ヒアリングおよび意見交換会を実施。昨今の生活環境や文化の変化に触れつつ、2024 年の台湾の一人あたり GDP が日本を抜いている背景についても説明いただいた。また、訪日観光客の状況や推移、新卒者の就職状況や給与水準に関すること、さらには、TSMC およびサプライチェーンの状況や取り巻く環境変化などにも触れつつ、現在直面している課題についても伺うことができた。その後は、各参加者より自己紹介や事業の紹介等を行い、意見交換を行った。

意見交換中の様子

＜日本台湾交流協会＞

同協会の設立の経緯、現在の機能について話を伺い、その後、質疑応答・意見交換を行った。

冒頭、今回ご対応いただいた方が福岡県の職員であり、実は 25 年間に亘り、福岡県から同協会に職員を派遣しているということを耳にした途端、誰かが号令したわけでもなく、急に博多弁が飛び交い始めた。

そのような和やかな雰囲気の中、台湾の医療水準や出生率、所得や物価の状況のリアルを伺うことができた。また、台湾メディアは視聴率の高さを求め、爆発事故よりも政治スキャンダルを報道しがちであるということを伺い、団員からは驚きの声が上がった。同協会への訪問を通じて、改めて台湾と福岡との繋がりの強さも感じることができた。

服部副代表との記念撮影

＜台湾貿易センター台北本部＞

冒頭、TAITRA 紹介ムービーを視聴後、王秘書長と龍造寺団長とで対話形式の意見交換会を実施。

同センターの設立趣旨、機関としての業務内容や同センター福岡事務所との連携状況に加え、TSMC の熊本進出による今後の方針についても触れながらご説明いただいた。

また、福岡事務所へ新たに所長が就任すること、大阪万博への展示も行う予定にしていること(訪問当時の状況)について説明があり、これまで以上にお互いの関係を築き、支援をお願いしたいとのお話をいただいた。

王秘書長は、龍造寺団長の戦国武将の末裔としてのバックグラウンドにとても関心があり、同日その話についても聞けたことから、大変貴重な時間を過ごしたとのお声をいただいた。

集合写真と意見交換中の様子

＜TSMC 台積創新館＞

冒頭、TSMC の歴史を辿るムービーを視聴後、施設内を視察。2024 年より日本語音声ガイダンスを導入したこともあり、理解度も増した。

当施設では、TSMC の創業から現在までを知ることができ、創業者であるモリス・チャン氏との対話を体験できるコーナーもある。(AI 技術による映像を利用)

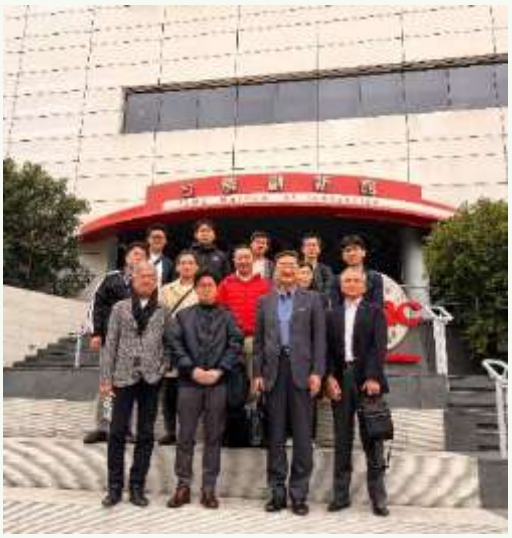
団員からの所感としては、

「同社の急成長と産業の米としての半導体の領域の広さに改めてその存在感を実感する機会となった。」

「TSMC という企業の技術力や、半導体分野 No.1 企業としての影響力、社会貢献度の高さを実感した。」

「イメージセンサー技術の進歩により画像が徐々に鮮明になっていく様を 1980 年代から現在までの時系列で見ることは貴重な体験であった。」

「(特に印象に残ったモリス・チャン氏の言葉)私は、何を作っているのかも大切だが、それを創った「人」にとても関心がある。厳しい課題の中でも明るい未来が待っている」



集合写真と施設視察中の様子

＜新竹サイエンスパーク＞

まず、探索館内の見学を行ったのち、サイエンスパークのスタッフによるパークの概要説明および半導体の製造工程を説明いただいた。

その後、サイエンスパーク内をバスにて見学し、各施設についての説明をしていただいた。

サイエンスパーク、14 平方キロメートルの敷地に現在は、(訪問当時)610 社ほどの国内外企業が所属しており、勤務するエンジニアは全体で約 5,000 人。そのうち日本人は約 500 人とのこと。

なお、1980 年設立当初は、12 社のみであったことから、現在もサイエンスパーク全体として成長している様子が伺えた。

サイエンスパーク内で働く従業員についても、4 割が修士以上であり、新竹市は三高一低（所得高、出生率高、教育水準高、台湾最年少都市）と言われている。

一つの町というイメージで、診療所や学校、ゴルフ練習場もあり、働く環境が整っている印象であった。

探索館前

半導体製造工程の説明を受ける様子

＜台湾高速鉄道 高雄燕巣操車場＞

冒頭、楊副総経理からご挨拶をいただき、担当者より高雄燕巣操車場に関する概要説明、質疑応答、その後、操車場内の見学を行った。

当日は分刻みのスケジュールを用意していただき、普段から時間を意識することが染みついている様子であった。

また、施設内には台湾地震の際に脱線しなかった日本製の第一号列車の先頭車両の台車を掲示しており、常日頃から安全第一を心がけている様子が伺えた。

（以下質疑応答から抜粋）

・どのような故障が多いか？

→空調の故障が多い(日本より気温が高いため、従来の空調能力では足りていないのが現状。)

・同操車場で扱う部品は台湾国内で生産されたものか？

→日本製で、日本から輸入している。但し最近では国内生産を目指している。

・日本に比べ、トンネルの断面積が広い分、車両にかかる空気圧等の負担が減っていると思うが、それでもメンテナンス周期は日本と同じか？

→同じである。

・塗装のロボット導入により、どのくらい効率化が図れているか？

→塗装自体を 19 日間で終えることができる。(但し、直接的に時間の短縮にはつながっていない。)

＜台湾高速鉄道 探索館及び総合指令室＞

前述の＜高雄燕巣操車場＞から高速鉄道で桃園まで移動し、探索館及び総合指令室の視察を行った。

冒頭、張副理よりご挨拶をいただき、担当者より総合指令室の概要説明が行われた。

その後、台湾高速鉄道の中枢である総合指令室の見学を行い、最後に探索館にてガイドスタッフ同行により見学を行った。

同指令室にて管理する車両については、全 34 編成、南港から左營まで距離にして約 350km を運行している。

探索館では、台湾高速鉄道の歴史を学ぶことができ、日本から台湾へ新幹線が導入された経緯なども知ることができる施設となっている。

高速鉄道が初めて台湾に採用される際に三井物産のプロジェクトリーダーとして最前線で指揮をとった当会専務理事である平塚氏も興奮を抑えられない様子で高雄燕巣操車場から探索館及び総合指令室まで隈なく視察を行った。

高雄燕巣操車場での様子

探索館及び総合指令室での様子

＜最後に＞

台湾訪問前、「当視察を通じ、団員同士が仲良くなり、繋がりをずっと大切にしていきましょう。」と龍造寺団長から話がありました。

6 日間でその関係は強固なものになったと確信しております。

当視察において、ご協力ご支援いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。

ありがとうございました。

福岡貿易会　専務理事　平塚 伸也
　　業務課長　尾上 敬洋

当視察にご参加いただいた皆様の企業名 ※五十音順	
河野産業(株)	(株)TVQ 九州放送
西部ガス(株)	(株)西日本シティ銀行
西部ガス都市開発(株)	日本通運(株)
西研グラフィックス(株)	(株)福岡銀行
(株)正興電機製作所	本多機工(株)
(株)中特ホールディングス	福岡貿易会(事務局)

福岡貿易会会員リレーエッセイ

●徒然なるままに

皆さん、日ごろから大変お世話になっております。福岡貿易会で 2019 年から専務理事を務めております平塚です。

1958 年に創設された当会ですが、福貿ニュースは当会の会員企業向け情報誌として 2007 年 4 月 27 日に内容を全面的に renewal した第 1 号が発刊され、今号で第 62 号を数えます。気になったので過去の「福貿ニュース」を探したところ、事務局に残された最も古いものは、昭和 35 年 4 月 10 日に発行された「福岡貿易月報第 17 号」で、当時の発行元は「福岡貿易振興会」で、住所が「福岡市天神町西日本ビル九階」となっており、記された電話番号は何と④7631。実に歴史を感じさせるものでした。この福岡貿易会の前身の「福岡貿易振興会」は 1958(昭和 33)年 9 月に創設されていますので、おそらくこの福岡貿易月報第 1 号は、1958 年 12 月頃から発行が開始されたのであろうと推測されます。古くからの会員の皆様、もし倉庫や書棚等に、設立当初からの古い「福岡貿易月報」が残っているようでしたら是非ご連絡ください！

第 17 号の写真

その後 1960(昭和 35)年 4 月に福岡韓国貿易促進協議会が設立され、1962(昭和 37)年には両会合同で総勢 24 名による当時戦後日本初の「韓国経済視察団」を派遣しています。また同年 11 月 10 日発行の名前を変えた機関紙「貿易福岡第 36 号」には、従来月刊として発行していたものを、報道の迅速を期するため貿易関係情報は別の「貿易速報」でお伝えし、この第 36 号から隔月の発行とすることが記されています。内容を拝見すると、韓国特集や台湾特集のほか対外貿易関連情報、貿易制度や輸出金融に関する解説、海外からの引き合い情報など、大変事細かに記事として掲載されていました。残されている原本には、まだラインマーカーなど存在していない時代を表し、赤鉛筆や青鉛筆でアンダーラインが引かれたり、おそらく当時の専務理事が執筆者で、お一人で情報収集・原稿作成・印刷・発行まで大変ご苦労なさっていた様子を伺い知ることができます。さらにその後 1969(昭和 44)年ごろから「貿易ニューズ」、「貿易ニュース」と体裁や発行形態を変え、1973(昭和 48)年に福岡貿易振興会を母体に他の貿易団体を統合することで正式に福岡貿易会が誕生します。貿易ニュースは、一時期恰も博多港と福岡空港での輸出入にまつわる税関統計のような記事が満載された時期もあったようですが、原則季刊として年 4～6 回発行され、事務局でも過去の資料が一部散逸しており正確さは欠くのですが、合計でざっと第 241 号まで発刊が継続され、冒頭に触れた 2007 年 4 月の「福貿ニュース」renewal へと変遷してきたようです。その後福貿ニュースも前号までで 61 号を数えますので、少なくとも通算 302 号の会報誌を発刊継続してきたことになります。

Renewal 第 1 号表紙

Renewal 第 1 号発刊の際の「編集後記」を読むと、当時の事務局長が「皆さんに読んでもらえる、将来は広告収入で発刊できる」広報誌を目指し、情報発信を主体に据えたいとの思いが記されていました。

編集後記写真

さて、翻って今の福貿ニュースがどうなっているんだろうかと自省を込めて読み返すと、残念ながら 18 年前に renewal を目指した内容から少しずつ離れてきており、会員の皆さんに「これは読んでみたい」と思っていただける会員企業向け情報誌の役割を果たせていないのではないかとの思いに至りました。単純に貿易会としてこれをやりました、こんなところに行ってきました、ゴルフコンペを開催しました、という所謂「報告」だけでは面白くないし、皆さ

んが「これは読みたい」と思える「将来的には広告収入で稼げる」機関誌を目指すにはどうすればよいかと考えてみました。そこで頭に浮かんだのがリレーエッセイでした。

現在当会の会員企業は約 330 社を数えます。一回の福貿ニュースに 2 社の会員企業にリレー形式でその時々の思いを書いていただいても今後 160 号は続くことになります。福岡貿易会からの情報発信のみならず、会員企業からも発信したい情報をお寄せいただければ「これは読みたい」広報誌が出来上がるだろうし、ひょっとすると 5 年後、10 年後には、「我が社の広告を出してほしい」と仰る会員企業が現れるかもしれない…。そんな思いでこれからリレー形式でエッセイをつないでいきたいと思います。どうか皆さんのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます！

さて、なぜ今号からリレーエッセイを開始するのかについて説明いたしましたが、いざ本文を書こうとすると、何について書くべきか頭を抱えています。

そこで、私が事務局で日頃からうるさいくらいに言っていることを文章にしてみることにしました。

一つ目が「報・連・相」です。仕事をする上での報告・連絡・相談です。でもこれがなかなか難しいようです。予め事務局内で情報共有を進めておくことで、一人で業務を抱え込んでしまわないように、三人寄れば文殊の知恵で新たな解決策も出てくるかもしれません。また担当者が問題に直面し、どうにもならなくなってから尻を持ってこられても最終的な解決まで無駄な時間と労力がかかってしまいます。だったら早い段階から進捗状況を「報告」し、進展を「連絡」し、困ったことが起きたらすぐに「相談」することで問題の複雑化を避けることができます。まぁ、それでもどうしようもない問題はありますし、そんなときには、例えば貿易会であれば「専務には報告してたじゃないですか」とか「専務やほかのみんなと相談してこうすることに決めたじゃないですか」など、専務に責任を押し付けることができるのです。業務の効率を上げるだけではなく、担当者一人一人の負担を低減できるのではないかと思います。皆さんの組織では、この基本的な「報・連・相」、本当にうまくできていますか？

二つ目は「届けたい情報を本当に届けたい人のところに届けられているか」ということです。多くの会員の皆さんはご存じだと信じて疑いませんが、福岡貿易会では本当に有益な情報提供事業やセミナーのほか、会員交流事業を実施しており、それらを周知するために情報発信をしています。現在福岡貿易会では、ご入会の際に会員企業各社様の「ご連絡先」をお伺いし、その「ご連絡先」宛てにうるさいくらいの情報発信がなされていると思います。でもそのうるさいくらいの情報が社内で共有されず、「ご連絡先」で止まってしまっては折角の有益(だと思われる)情報が単なる雑音に変わってしまい、毎年お支払いいただいている年会費が無駄払いになっているのではないかということです。こうした休眠会員の皆様の中には、毎年お送り申し上げている年会費請求書が届く時期になると、「福岡貿易会ってなんやったかいな？」とか「年会費がもったいないから」等の理由で退会申し出をしていらっしゃる企業様も散見されます。

でも、ちょっと待ってください！当会の活動には、会員登録いただいている「社長」や「代表者」でなくてもご参加いただくことが可能です。

中には「業務と無関係だから」などと退会をご希望なさる企業様もおありです。とんでもない！今の世の中、直接海外との輸出入を行っていなくても、トランプ大統領の一言で為替が大きく動いたり、世界のどこかで起きている戦争や紛争によって原油、原材料価格が変動するし、中には労働力として外国人が活躍なさっている企業様も多いと思います。皆様の企業活動は、世界とどこかで必ずつながっています。そんな企業様、福岡貿易会の活動が業務と無関係だから、なんてありえません。それは福岡貿易会をご活用できていないだけです！ぜひとも各種活動に積極的にご参加いただきネットワーキングに繋げたり、情報を有効活用いただき、寧ろ福岡貿易会を使い倒して年会費分の元を取ってくださるようお願いします。そうすることで福岡貿易会の各種活動もますます活性化が図れるようになると思います。

私からのリレーエッセイのバトンは、株式会社やまやコミュニケーションズの山本正秀社長と丸紅株式会社九州支社の花田多雄支社長にお渡しします。山本社長、花田支社長、こんな感じで軽く随想でも書いていただければ結構です。次回の楽しいエッセイを期待しております！ということで、次号以降はバトンは 2 本で繋げていただきます。何卒よろしくお願い申し上げます。

公益社団法人福岡貿易会
専務理事
平塚　伸也

ガンバってます、会員企業！
(株)インターナショナル エア アカデミー 様

福岡から世界へ、人づくりの挑戦
～シニアアテンダント事業「九州経済産業局長賞」受賞を受けて～

【弊社の歩み】

私共は、1984 年の創業以来、合格率200％の航空専門校として世界の大空に優秀な人材を輩出してきました。世界で通用する人材育成を使命に、ニュージーランド、ハワイ、台湾への留学コースを設立し、常にグローバルな視野を育む教育で、企業の即戦力となる人材へと育てています。また、約 4,000 社以上の企業研修は、日本国内にとどまらず、アジアを中心に海外でも実施、福岡を拠点に日本と世界を結ぶ“人材の架け橋”としてその歩みを続けています。

【シニアアテンダント事業の創設】

そんな弊社が 2024 年より新たに取組んでいるのが、「シニアアテンダント（SA）」という全く新しい事業です。現在、高齢者支援の多くは、「介護が必要な方」に向けられていますが、実はその手前の「介護はまだ必要ないけれど、ちょっとした手助けがあれば、もっと自立した生活が送れる」というアクティブシニアの方が多くいらっしゃいます。

そのアクティブシニアの話し相手になったり、活動のサポートをしたり、外出のきっかけを提供するなど、介護が不要な段階で適切なサポートを提供することは、健康寿命を伸ばし、フレイル予防につながります。さらにこのシニアアテンダントは定年後のシニア人材の就業機会創出という社会課題解決にも寄与することができます。超高齢化が進む日本において、ただ長生きするだけではなく、健康で自立し、支え合う未来を創ることがこの事業の目的です。

【九州経済産業局長賞受賞】

この度、本取組みが「第 12 回ヘルスケア産業づくり貢献大賞」において、「九州経済産業局長賞」を受賞しました。41 年間人づくりを主に成長してきた我が社にとって、シニアアテンダントという人づくりで評価していただいたことは、教育機関としてさらなる自信につながる受賞となりました。

星野九州経済産業局長より表彰状

表彰状

九州経済産業局長賞（優秀賞）

インターナショナル エア アカデミー

代表者 永江 静加 殿

第十二回ヘルスケア産業づくり貢献大賞においてあなたの取組は優秀であり今後のヘルスケア産業の発展に寄与すると認められましたのでこれを賞します

令和七年四月十日

九州経済産業局長

星野 光明

【シニアアテンダントの現在】

日本では企業のお客様も高齢化が進んでいます。そのため、企業におけるシニア向けの接客や販売業務に、シニアアテンダントを導入していただくことで、シニア顧客への対応力の強化を図っています。シニアは今や、重要な消費者層です。また、個人で資格を取得する方も増加傾向にあり、主婦や副業希望者、リタイア後の再就職手段として、受講者層は広がりを見せています。

【シニアアテンダントの未来】

さらには、シニアとシニアアテンダントをマッチングするスマートフォン用アプリの開発も進めており、まもなく公開予定です。これにより、シニアはシニアアテンダントに気軽に依頼することが可能となり、地域内で安心して人と人がつながり、日常的に助け合える“循環型の社会モデル”の形成が期待できます。

高齢社会を先取りした日本の知見と実践は、これから海外にも共有され新たな貿易や人材交流の形に繋がると信じています。シニアの満たされる人生の旅路をシニアアテンダントがサポートし、ここ福岡から、やがて日本中に、そして世界中にシニアとシニアアテンダントの笑顔が溢れる未来を目指します。福岡を日本一シニアに優しい街に！私たちの挑戦は続きます。

株式会社
インターナショナルエアアカデミー
代表取締役会長
永江　静加

〒810-0001
福岡市中央区天神 3 丁目 4-5-10F
TEL：092-771-3511　FAX：092-771-3512
URL:https://www.iaa.co.jp

ガンバってます、会員企業！
(株)ファビルス 様

人と現場にまっすぐ向き合う。ファビルスが切り拓くビルメンテナンスの未来

【ファビルスの歩みと業界の意義】

私たちファビルスは、1958 年の創業以来、ビルメンテナンス一筋に歩んできました。清掃や設備管理にとどまらず、建物の価値を守り、高めることを使命とし、お客様の大切な資産と向き合ってまいりました。安全・快適な環境づくりを通じて、建物の利用者様やオーナー様、そして地域社会全体に安心を届けることが、私たちの変わらぬ想いです。

創業当時の写真

【業界が抱える構造課題】

こうした重要な役割を担う一方で、ビルメンテナンス業界は就職先としての認知がまだ十分とは言えず、人材確保に課題を抱えています。専門性の高い業務でありながら、給与水準とのギャップや将来性への不安から、若年層の定着が難しい現状があります。また、人件費や資材の高騰が進む中でも、オーナー様への価格転嫁が容易ではなく、品質を維持しながら持続的な経営を図る難しさがあります。

【人を育て、品質をつくる取り組み】

私たちは「品質は人から生まれる」という信念のもと、人づくりに力を注いでいます。入社時から段階的な教育プログラムを整え、清掃技術や設備知識はもちろんのこと、接遇マナーや報連相といった基本動作にも力を入れています。また、スマートフォンや ICT ツールを活用し、業務の効率化・見える化を進めることで、働く人が達成感と誇りを持てる現場づくりを実践しています。

ガラス切り実技 1

ガラス切り実技 2

ポリッシャー

【声を活かす風通しのよい組織へ】

「双方向の組織づくり」も、私たちが大切にしている姿勢のひとつです。アンケートやミーティング、経営層との意見交換を通じて、現場からの声を吸い上げ、制度や環境改善に反映しています。一人ひとりの声を大切にし、現場での課題を柔軟に受け止めていくことで、働く人が安心して長く勤められる職場環境の整備に努めています。

【未来を見据えたサービス提供へ】

近年は脱炭素・省エネ・サステナビリティといった観点がますます重視されています。当社では、環境対応型の清掃資材や、LED 照明・空調などのエネルギー管理の提案を通じて、環境と建物の両方にやさしい施設運営を支援しています。

これからもファビルスは、現場とお客様にまっすぐ向き合いながら、日々の積み重ねを通じて、より良い社会づくりに貢献してまいります。施設運営やビル管理に関してお困りのことがございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。

ファビルス

株式会社ファビルス
代表取締役社長
野田　太

〒812-0036
福岡市博多区上呉服町 10-1 博多三井ビル
TEL：092-710-5670　FAX：092-710-4736
URL:https://www.fabils.co.jp

◆◇◆◇◆◇

新 会 員 の ご 紹 介

株式会社インハウス

代表者：代表取締役　大田原 哲也
所在地：福岡市中央区天神 2-3-10 3F
TEL　：050-1722-2196
Email　：info@inhowth.jp
URL　：https://inhowth.jp/
主要業務：
・海外向け PR『Global PR Wire』の配信コーディネート
・各種メディアを利用した企業・商品の PR 業務
・記者発表・会見の手配～実施
・販売促進に関するプロモーション業務

当社の特色：
『Global PR Wire』は、海外の通信社に話題のトピックスを提供する国内最大の配信プラットフォームです。AP 通信、FOX ほか 100 以上の配信掲載を保証するプレスリリースを実施します。グローバル市場での成長を目指す企業が、初めての海外 PR を安心して利用できるようにシンプルな仕組みと明確な料金体系を導入し、これまで難しいとされていた海外向け PR を手軽かつ迅速に支援します。また会員の皆様専用のお得なパッケージもご用意しております。
お気軽にお声がけください。

黒澤合同事務所
（クロサワ・コンサルティング・ベトナム）

代表者：黒澤 功栄
所在地：東京都中野区中野 4-4-11
（ベトナム法人：ハノイ市およびホーチミン市）
TEL　：03-3388-2316
FAX　：03-3388-2570
Email　：honda@kurosawa.vn
URL　：https://kurosawa.gr.jp/about/
主要業務：
【日本本社】司法書士業務（不動産売買・会社設立時ならびに相続登記）【ベトナム法人】ベトナム法人買収（M&A）支援、現地法人設立支援、会計税務支援（日本人、ベトナム人会計士及び弁護士在籍）

当社の特色：
弊グループは東京中野で業歴 55 年の歴史を持つ司法書士法人です。日本での司法書士業務のみならず、ベトナムで会計・法務コンサルティング事務所を運営しています。
ベトナムへの進出、現地企業の M&A、販路拡大等について、経験豊富な会計士・弁護士・FP がサポートさせていただきます。お気軽にお問い合わせください。

株式会社 JPS

代表者：代表取締役　樋口 義之
所在地：福岡市中央区谷 1-12-26
TEL　：080-8351-1836
Email　：contact@jps.co.jp
URL　：https://jps.co.jp/
主要業務：
①企業の海外展開支援。
②Oxford 英語辞典特別顧問と連携し、品格ある英語 Web サイト構築・情報発信。
③海外先進技術（ボルト組立式超耐久タンク、送電効率化、脱炭素等）の導入。

当社の特色：
代表の 30 年超にわたる国際ビジネス経験を基に、企業の海外展開を支援します。海外市場への「顔」となる英語サイトは、企業の信頼を左右する重要なツール。Oxford 英語辞典特別顧問と連携し、企業の品格と信頼を世界に伝える情報発信をお手伝いします。また海外の送電効率化技術や溶接不要で瞬時に組立可能な超耐久タンク等を国内に導入し、日本の社会課題解決にも貢献します。

新 会 員 の ご 紹 介

株式会社日本 M&A センター

代表者：九州支店長　中村 健太
所在地：福岡市博多区博多駅前 2-2-1
福岡センタービル 9F
TEL　：092-686-9279
FAX　：092-686-9280
Email：kozai@nihon-ma.co.jp
URL　：https://www.nihon-ma.co.jp/
主要業務：
・中堅・中小企業の M&A 支援、上場支援を業としています。
※『M&A』とは企業の合併や買収を指し、外部の資源を活用したレバレッジ戦略の 1 つとして、企業成長や経営課題の解決に有効な手段として位置づけられている。

当社の特色：
1991 年の創業以来、M&A 仲介業のリーディングカンパニーとして、業界最多の累計 10,000 件超(『M&A 成約件数』のギネス世界記録に認定)の友好的 M&A を支援してまいりました。全国の地方銀行 9 割、信用金庫 8 割、1,072 の会計事務所と提携し、国内最大級の M&A 情報ネットワークによる圧倒的な情報量と、経験に基づいた知見、専門家によるフォロー体制等、M&A をワンストップで支える総合力で、安全・安心に M&A をご提供します。

日本M&Aセンター

三村小松法律事務所 国際ビジネス部門

代表者：大口 裕司(部門代表)
所在地：東京都千代田区丸の内 2-1-1
明治生命館 6F
TEL　：03-6868-3050
FAX　：03-6747-6862
Email：okuchi.yuji@mktlaw.jp（部門代表）
URL　：https://mktlaw.jp/
主要業務：
・海外ビジネスや国際取引、企業法務について幅広い法務サービスを提供しています。中でも、危機管理、紛争予防・解決、契約交渉、ビジネスモデルの分析、海事・物流・貿易、オフショア、造船、人事労務、知的財産などを強みとしています。

当社の特色：
①海外経験を有する弁護士が多く所属しています。様々な国の弁護士とコネクションを有しますので、対応できる国の範囲が幅広いです。②様々な経歴の弁護士が所属しているので、対応できる産業分野も広いです。③部門代表の大口裕司弁護士は、海事・物流・貿易を得意とする珍しい弁護士です。大口弁護士は、中央経済社から「Q&A 海事・物流・貿易の契約実務と危機管理―基本実務から運送契約、傭船契約、船荷証券、海難事故対応までトータルカバー」という書籍を出版しています。

Mikotama

＜入会のご案内 ＞

福岡地域の貿易を振興し、地域経済の発展を図るという福岡貿易会の目的に賛同され、自らのビジネスや地域経済を発展させたい方の入会をお待ちしております。

入会費	5,000 円
年会費	1 口 42,000 円(年度途中の入会の場合は、月割り)

入会手続きにつきましては、福岡貿易会事務局にご連絡ください。
【福岡貿易会 事務局】
〒812-0011　福岡市博多区博多駅前 2-8-1　博多区役所庁舎 9F
TEL：092-452-0707　　FAX：092-452-0700
E-mail：info@fukuoka-fta.or.jp

事務局(博多区役所庁舎 9F)

コラム「貿易ニュース今昔物語」①

皆さんこんにちは！
福岡貿易会の古くからの機関誌を整理するうちに、「へー、昔はこんな風だったんだ？！」と思わせられる記事をたくさん発見しました。
昭和や平成の時代を振り返る興味深い内容も多く残されておりましたので、これからシリーズで皆さんにご紹介していきたいと思います。是非読んでみてください。

1960年4月10日付福岡貿易月報第17号より

事務所所在地：福岡市天神町西日本ビル9階
発行編集人：安部隆任
電話番号　4-7631

当時は発行編集人は「福岡貿易振興会会長」(三井物産(株)福岡支店長)だったようです。電話番号もわずか5桁です。なんとこの時代、市外局番もなかったようです。(以下、促音表記も原文のまま「っ」ではなく「つ」を使いました。)

博多港に初の大型船入港
3月14日博多港に初の大型船が入港した。リベリア(モンロヴィア)国籍のワールド・フェリシモ号(13,500トン)はカナダから伊藤忠会社輸入の小麦12,000トンを積載して入港した。これは博多港開設以来の大型船で接岸に当たつては、1,200トン程度の沖取りを行つて入港した。この小麦は東福製粉、八女糧食両社買付のもので福岡市ではこの画期的大型船の入港を記念し3月16日正午から帝国ホテルにおいて歓迎レセプションを催した。出席者は船長以下高級船員を主賓として伊藤忠代表者、東福製粉、八女糧食両社長、博多港長、税関支署長、海運局支局長、植物検査所長、農林省代表者、食糧事務所長、福岡貿易振興会長、博多港振興協会長、博多港倉庫業会長、博多港運送業協会長など約50名で奥村市長の歓迎の挨拶と船長に花束および博多人形を贈呈し船長の謝辞があつた。なおワールド・フェリシア号はフランスで建造され所有船会社はイギリス、船籍はリベリア、乗組員は船長以下全員西ドイツ人、積載貨物はカナダ産と国際色が極めて豊かでレセプションの話題を賑わした。

時代を感じますね。現在の博多港では、貨物船で6万5,000トン、クルーズ客船では22万トンの船も停泊可能です。しかも初の大型貨物船の入港にあたって、当時の福岡市長の主催で歓迎レセプションを開催したそうです。

編集後記：
○ いつの間にか桜が咲いて無情な雨に誘われて散つていつた。来年の桜時分には貿易自由化の問題もひと段落して落着いた産業の姿が見られるだろう。
○ 貿易自由化のスケジュール決定を前にして政治的に経済的にあまりにも動きが大きい。今年の春の嵐は新安保、三池騒動と貿易自由化か。
○ 貿易自由化は外的、内的要請の如何を問わず進めなければならない日本の宿命である。これに備えて早目に体制を整え対策を怠つてはなるまい。
○ 本誌は本号から横行刷を採用し編集に面目を改めたつもりである。各位の御指導と御叱声を切望する。(4.15ー谷)

いかがですか？なんとも抒情的で、当時の世相をうかがわせる文章だと思いませんか？執筆者の谷哲次氏は、昭和33年9月の福岡貿易振興会設立時から昭和37年10月まで初代専務理事を務めた方です。不思議なのは、4月10日付で発行されたはずなのに、編集後記の日付が4月15日になっているのは御愛嬌でしょうか…。

さらに
1960年12月10日付福岡貿易月報25号より

編集後記：
○ 鳥兎忽々、本年もまさに暮れようとしている、貿易自由化、安保騒動、三池争議、総選挙など実に目まぐるしい一年であつた。
○ 世界最大の繁栄の年であり、日本経済も伸びに伸びた年でもあつた。所得倍増計画もこの経済成長の波に乗つて池田新内閣の大きな課題となつた。
○ アメリカのドル防衛に当つて日本に対する風当たりは極めて厳しいものがある、琉球、韓国の影響が間接にも響いてくる、すべてが明年に残された大問題である。
○ 会員ならびに関係者各位の御多幸を祈りつつ筆を擱く。(35.12.10ー谷)

いいですねぇ。沖縄返還(1972年5月)のずいぶん前、韓国との関係も正常化されていない時代、池田勇人内閣が所得倍増計画を打ち出した年の暮れです。
次回もまた興味深い記事を見つけてきます。乞うご期待！

公益社団法人福岡貿易会
専務理事　平塚　伸也

●令和７年度事業計画

令和 7 年度も多彩な事業を実施します。人材育成事業については、専門分野から講師をお招きし、貿易等について実践的で、体系的に学べる「貿易実務講座」や海外ビジネスに欠かせない「グローバル人材育成セミナー」の開催のほか、夜間語学講座として、「ビジネス英会話～中級編～」を実施します。

また、海外市場開拓については、アンケート結果などのニーズを踏まえて、9 月に「グレーターベイエリア(香港、深圳、広州)視察団」、11 月に「フィリピン・インドネシア経済視察団」を派遣いたします。

さらに、会員同士の交流を深めるため、大規模な交流会として、総会・年末交流会やゴルフコンペの開催など、様々な事業を実施する予定です。

ぜひ、皆さま方のさらなるビジネスの発展にご活用いただきたいと存じます。

事業区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人材育成	貿易実務講座		新任者向け貿易実務(5/14-15)	通関手続入門(6/12)	動植物検疫(7/10)	貿易実務入門(8/26)	外航海上貨物保険	食品輸入実務	貿易実務基礎			貿易実務と通関知識	関税セミナー
			新人セミナー施設見学(5/22)	食品輸入入門(6/18)	英文ビジネスEメール入門(7/14・24)	貿易法務(8/7)						貿易保険	グローバルマーケティングと貿易実務
	グローバル人材育成			イタリアへの海外展開(6/20)	福貿グローバル塾(インド編)毎週水曜日　全5回(7/9-8/6)								
	夜間語学講座						ビジネス英会話講座中級編 毎週木曜日　全15回						
		ビジネス中国語会話(実践編)毎週水曜日　全12回(4/9-6/25)											
	海外情勢セミナーその他	アメリカ進出(4/17)		総会講演会(6/3)						年末講演会(12/2)			
海外市場開拓	経済ミッション派遣						香港・深圳・広州(9/15-20)		フィリピン・ブルネイ(11/17-25)				
交流事業	大規模交流会	福貿ゴルフコンペ・懇親会(4/16)		総会交流会(6/5)				福貿ゴルフコンペ(10/7)		年末交流会(12/2)		理事・参事懇談会	
	福貿ビジネスラボ						○		○		○		

※ 網掛け は有料セミナー

福岡貿易会からのお知らせ

今後開催の交流会事業

■■■ 福貿ゴルフコンペ ■■■

【日時】令和 7 年 10 月 7 日(火) 7:32～
アウト･イン 同時スタート(スループレー)
【会場】福岡雷山ゴルフ倶楽部
【定員】64 名 (16 組) アウト 8 組、イン 8 組

■■■ 年末交流会 ■■■

【日時】令和 7 年 12 月 2 日(火)18:00～
※16:30～年末講演会を実施予定
【会場】ホテルニューオータニ博多
※年末交流会は詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。

今後開催のセミナー･講座

■■■ セミナー ■■■

貿易法務オンラインセミナー

【日 時】令和 7 年 8 月 7 日(木) 13:30～15:30
【形 式】オンライン(Zoom ウェビナー)
【講 師】三村小松法律事務所 大口 裕司弁護士
【受講料】無料
【内 容】物流･貿易に特化した大口弁護士による法務セミナー。実務における誤解やトラブル、そして対応法までを一貫して講話いただきます。

中矢先生による貿易実務講座～入門編～

【日 時】令和 7 年 8 月 26 日(火) 9:30～16:30
【形 式】オンライン(Zoom ミーティング)
【講 師】国際法務(株) 代表取締役 中矢 一虎氏
【受講料】会員 5,000 円、一般 10,000 円
【内 容】毎年大好評の中矢先生による新任者向けに輸出入に必要なルール･書類の読み方、コスト計算など、もう一度基礎を学びたい方にピッタリの講座です。

■■■ 夜間語学講座 ■■■

ビジネス英会話講座･中級

【日 時】令和 7 年 9 月 4 日～12 月 11 日 全 15 回
毎週木曜日 19:00～20:30
【会 場】福岡貿易会事務所(博多区役所 9F)
【対 象】英検 2 級～準 1 級、TOEIC600～800 程度の方
【講 師】Adam Stone 氏
【受講料】会員 28,000 円、一般 56,000 円

福岡貿易会のホームページで随時、様々な情報を更新しておりますので、ぜひご覧ください。
また、公式 Facebook のフォローや「いいね！」をお願いします。
https://www.fukuoka-fta.or.jp/
https://www.facebook.com/fukuokafta/

福岡貿易会 新職員ご挨拶

永田（ながた） 世里菜（せりな）

柴田さんの後任の永田と申します。2025 年 3 月まで(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)福岡事務所にて輸出･拠点設立事業のアシスタント、スタートアップ企業支援、高度外国人材事業を担当しておりました。
今は必死に皆様のお顔を覚えることやセミナー運営など、毎日をあっという間に過ごしております。不慣れが故に皆さまへご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、精進いたしますので、何卒よろしくお願いいたします。

【略歴】2009 年より国内航空会社にて勤務。航空関係の仕事に従事
2020 年 7 月より(独)日本貿易振興機構(ジェトロ)福岡事務所勤務
2025 年 4 月から現職

■編集後記（事務局長 西依）
この度、専務理事の号令で、福貿ニュースのリニューアルを行いました。多くの方々に読んでいただけるよう、構成を工夫し、文字や写真を大きくしております。レイアウト･編集を自前で行っているため、かなり大変でしたが･･･。皆様からご意見をいただきながら、情報発信したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

【発 行】公益社団法人 福岡貿易会
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前二丁目 8 番 1 号 博多区役所庁舎 9F
TEL 092(452)0707 FAX 092(452)0700
【発行日】令和 7 年 7 月 30 日